

# 理事長所信

2012 年度理事長予定者木村亮一

## 【はじめに】

私が2000年7月1日、下期入会予定者として初めて青年会議所という学び舎の門をたたいて以来11年経ちました。その間、この学び舎で数多くの出会いに恵まれました。諸先輩方には厳しく叱られながらも、温かく愛情をもって、色々なことを教えて頂きました。また数多くの心強い仲間には様々な面で助けて頂きました。そのおかげで本当に多くの気づきや学びを得ることができました。改めてそんな数多くの貴重な機会を与えて頂いた青年会議所という学び舎とそこでの出会いに感謝しつつ、恩返しすべく活動してまいります。

ところで、私は常々「青年会議所活動は己の人的成長を映す鏡である。」と  
思っています。

青年会議所活動は、自分の英知を最大限駆使し、情熱と使命感をもって、勇  
猛果敢に挑戦し、汗を流せば、流すほど、より多くの気づきや学びを得ること  
ができます。また、その気づきや学びが自分の血となり、肉となって、己を人  
間的に成長させ、魅力を向上させることができます。

己の人的成長なくしては地域にも、仕事にも、家庭にも、自分たちの気づ

きや学びを還元することはできません。

現在私達を取り巻く環境は、2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、先行きの見えない一段と深い不透明感と厳しさに覆われています。この未曾有の危機ともいえる中で、何より私達の価値観そのものが変わったとさえ言われています。

そんな時だからこそ今まで以上に、我々メンバーひとりひとりが青年会議所活動という鏡に己を映し、襟を正して、人間的に成長し、己の魅力を向上させることが必要だと思います。そして、そんなメンバーが互いの魅力を認め合いながら、切磋琢磨しつつ、絆を強くしていくことがこの不透明感や厳しさを打破する活力になると確信します。

2012年社団法人一宮青年会議所は、メンバーひとりひとりが、活動を通して、お互いを切磋琢磨しながら、より成長できる魅力あふれた絆の強い組織を目指し、活動します。

【市民として一活気あふれた魅力ある地域<sup>まち</sup>を創造する。】

「一宮とはどんなまちですか?」「一宮の魅力ってなんですか?」

こんな質問をされた時、みなさんは何と答えられますか。

我々の住む一宮は古くは平安時代より織物の一大産地として繁栄し、昭和初期には「毛織物の町一宮」として全国にその名をとどろかせました。町には機

織り機の音が響き、週末ともなれば、そこで働く女工さん達で中心地がにぎわう活気にあふれたそんな<sup>まち</sup>地域でした。

しかし、現在の一宮は人口でこそ38万人を超え、中核市の資格を有する都市となりましたが、主力産業である繊維業をはじめとする地場産業に元気がなく、中心地の空洞化も目立ち、ともすれば他都市に類を見ない交通の利便性のみが目立つそんな<sup>まち</sup>地域だとさえいわれています。

私はこの<sup>ふるさと</sup>郷土ICHINOMIYAをそんな昔以上に活気あふれた魅力ある<sup>まち</sup>地域にしたいと思います。

そのためには、そこに住む人々すなわち市民主導の真に自立したまちづくりの実現こそが必要だと考えます。私たち市民ひとりひとりが、自分の立場で、この<sup>まち</sup>地域の現状を考え、その問題点の解決に向けて、未来を見据えながら、一緒になって行動することこそが、市民主導の真に自立したまちづくりだと考えます。

私たち社団法人一宮青年会議所は、メンバーひとりひとりが、そこに住む人々すなわち市民として、「自分達の<sup>まち</sup>地域は自分達で拓く」という強い信念をもって、自分たちの<sup>ふるさと</sup>郷土が活気あふれた魅力ある<sup>まち</sup>地域となることを目指し、市民の皆様と共に活動してまいります。

【大人として—おもいやりと郷土心にあふれた子どもたちを育成する。】

我々の子どもの頃は、愛情表現は決して上手ではありませんが、物事の善し悪しや相手を思いやるころをちゃんと教えてくれたそんな「強い（こわい）大人」がいました。身をもって、この郷土<sup>ふるさと</sup>の絆の素晴らしさを教え、郷土<sup>ふるさと</sup>を愛する心すなわち「郷土心」を植えつけてくれたそんな「優しい大人」がいました。そんな大人は親や祖父母、先生だけでなく、周りの大人がみんなそうでした。

しかし、現代社会においては、残念ながら、人間関係の希薄さからかそんな大人が周りから少なくなりました。お互いの距離が遠くなってしまい、子どもに対する責任を放棄し、時にはしつくと称して虐待をくりかえす「怖い大人」や無関心であるが故、「いい人」でありたいが故、子どもを甘やかすだけの「易しい（やさしい）大人」ばかりが増えてしまっているのが現状の姿ではないでしょうか。

そんな今だからこそ、我々大人が、今一度、将来を担う子どもたちと正面から向き合う姿勢を忘れず、親として、地域<sup>まち</sup>の大人として、凜とした姿を見せる時ではないでしょうか。

私たち社団法人一宮青年会議所は、将来を担う子どもたちを、夢と希望を抱きながら、相手を思いやる心「おもいやり」や郷土<sup>ふるさと</sup>を愛する心「郷土心」にあ

ふれた明るい豊かな未来を託せる子どもたちに育成します。

【青年経済人として一地域貢献できる青年経済人になる。】

我々メンバーは青年会議所活動を通じて様々な出会いと気づきを得ることができます。これこそかけがえのない財産であり、また、その財産を自分自身の成長に生かすとともに、誇りを持って、社会に還元していくことで、周りに対して相乗効果をもたらすことができる素晴らしいものだと思います。

その素晴らしいものを活かしつつ、<sup>ふるさと</sup>郷土のために、そこに住む人々のために、そして、将来を担う子どもたちのために、我々はひとりの青年経済人として何ができるのかをしっかりと見つめなければなりません。

確かに昨今の震災等に伴う経済不況の中、我々を取り巻く経営環境が厳しい状況にある事実は否めません。しかしながら、そういう時だからこそ我々は企業活動を通して、<sup>まち</sup>地域に対する貢献ができる青年経済人になることが我々に課せられた使命であると考えます。その使命を胸に、どんな逆境にも負けない強い信念をもった、「器」の大きい青年経済人になるべくこのJCという学び舎で共に学びましょう。

【メンバーとして一真に必要とされる青年会議所をめざして】

地域<sup>まち</sup>から、そこに住む人々から今まで以上に真に必要とされる青年会議所となるには「明るい豊かな社会の実現」という崇高な理念のもと、志を一つにできる強い絆で結ばれた仲間を増やすことと時代に則した組織作りが必要だと考えます。

私が入会した当時は社団法人一宮青年会議所の会員数は120名を超え、活気にあふれたLOMでした。しかしながら、2012年初頭には今のままでの会員数は70名前後の状態です。また、これから2012年度以降3年の卒業予定者の数は現会員数の約50%に及びます。まさしく存続の危機とすら言える状態だと思います。我々の仲間を増やすこと即ち会員拡大は青年会議所活動の全ての根源であります。2012年はメンバーひとりひとりの会員拡大に対する意識を高めるとともに、私達とともに、この郷土<sup>ふるさと</sup>ICHINOMIYAのため、互いに切磋琢磨できる強い絆で結ばれた仲間を一人でも多く増やせるよう、活動してまいります。

また、我々は2007年より社団法人制度改革に伴うLOMの様々な組織制度改革への取り組みを行ってまいりました。2012年はその集大成となるべき年だと考えます。社団法人制度改革に伴う様々な見直しには、我々の活動によって乗り越えなければならないハードルがたくさんあるのも事実ですが、新たな一步を踏み出すためにも、今一度青年会議所活動の原点に立ち返り、時代

に則した LOM の組織制度改革を行なってまいります。

#### 【おわりに】

古より「歴史は<sup>いま</sup>現在を映す鏡である。」と言われます。

1951 年の誕生以来 61 年に及ぶ社団法人一宮青年会議所の輝かしい歴史という鏡に、<sup>いま</sup>現在の我々はどのような姿で写っているのでしょうか。諸先輩方はその時々において社会における諸問題について、熱き情熱と気概をもって乗り越えてこられました。我々も諸先輩方が築きあげられてきたその輝かしい歴史と伝統という財産に感謝しつつ、それを礎とし、自分たちのいる<sup>いま</sup>現在という瞬間を誠実かつ前向きにとらえ、歴史の一ページを刻むべく、主体的に行動してまいります。

また、「未来を映す鏡」にはこの郷土（ふるさと）の活気あふれた姿、笑顔あふれる子どもたちの姿が見えます。そして何よりこの「未来を映す鏡」こそ我々が推し進める青年会議所活動の中にあるのです。その「未来を映す鏡」を曇らせることなく、熱い情熱と気概をもって、当事者として、時代に即した変革と創造を見据え、地域（まち）、そしてそこに住む人々の明るい未来に向かって、誠心誠意着実に歩みを進めます。「魅力あふれる<sup>ふるさと</sup>郷土 ICHINOMIYA の創造」という使命を抱いて・・・

